きゅうりのうどんこ病防除体系

（園試、環境部）

1　背景とねらい

平成４年度の参考事項で示したとおり、ブルームレス台木の普及に伴い、きゅうりのうどんこ病は初発時期が早まる傾向にある。また、卓効を示すとされたＥＢＩ剤に効力の低下が確認され、これまでの防除体系でも発生を抑えきれない事例が目立ってきた。

しかし、うどんこ病は耐性菌が発現しやすく、また、長期にわたって防除を必要とするため、安全使用基準を守り、かつ、十分な効果を上げられる体系を組むことは非常に難しい現状にある。

そこで、耐性菌出現や安全使用基準を考慮に入れた防除体系及び主要品種のうどんこ病抵抗性について検討した結果、防除開始時期や有効な防除体系及び品種間差について明らかになったので参考に供する。

2　技術の内容

(1) ブルームレス台木の「南極１号」では、発病初期(発病葉率10%程度まで)からの防除が必要である。この際、使用する薬剤は、うどんこ病に卓効を示す薬剤または混用することで優れた効果を示す組み合わせ(平成８年度野菜・花き栽培指針のグループＤ２～６)とうどんこ病に効果がある殺菌剤(同指針のグループＡ～Ｃ)からの交互使用で防除できる(図２-1、２-2)。

初発確認が遅れ、すでに発病葉率が高くなった場合、卓効を示す薬剤を連用しても防除しきれないので、葉裏の病斑に注意して圃場をよく見回り、早期発見・早期防除をすることが大切である。

(2) 例年発生の多い園地でも初発確認直後からの散布開始で防除できる。なお、圃場の頻繁な見回りが難しい場合には６月下旬(早期発生地域で例年初発が確認されている時期)から予防的に散布する。この場合も卓効を示す薬剤と効果のある殺菌剤を交互に使用する(図２-1、２-2)。

(3) 現在栽培されているきゅうりの主要品種の中で「夏すずみ」はうどんこ病抵抗性をもち、他品種に比べて発病が少ない。本品種では効果のある殺菌剤だけの使用で防除できる（図３-1、図３-2）。

3　指導上の留意点

(1) 初発後散布の場合、卓効を示す薬剤から使用し、伝染源を減らす。

(2) きゅうりは同時期に複数の病害が発生するので、他病害を考慮して薬剤を選択する。詳しくは、平成８年度野菜・花き栽培技術指針の「きゅうり病害虫防除体系マニュアル」を参照する。また、それをもとに防除歴を作成することが望ましい。

(3) ９月以降は感染が少なくなるので、８月まで少発に経過した場合は、９月以降の防除を効果のある殺菌剤だけで行うことができる。

6　試験成績の概要

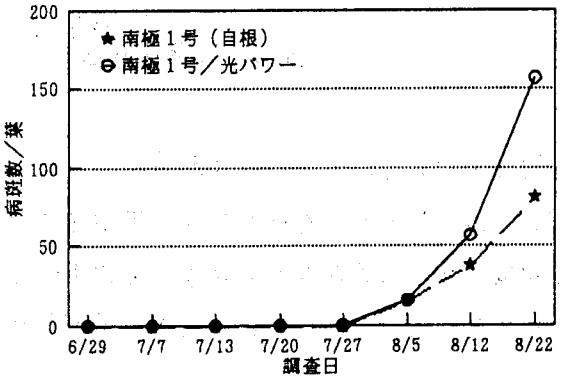

図１　自根と接ぎ木の発生消長(平成６年)

表１　自根及び接ぎ木の初発時期（平成７年度）

接ぎ木の有無	初　発　確　認　日
自　　根	８月　２日
接　ぎ　木	６月　２１日

注）初発確認までうどんこ病は無防除
　　品種は南極１号、台木はひかりパワー

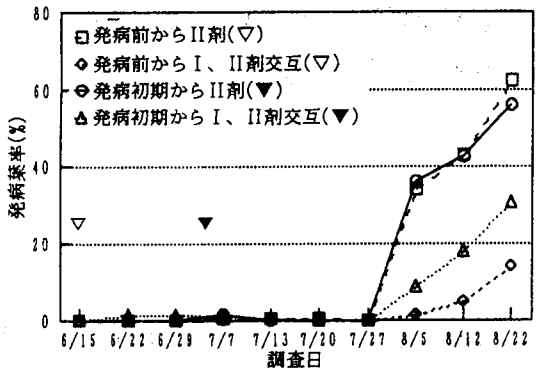

図２-１　区別の発生消長(平成６年)
品種は南極１号／ひかりパワー、初発は6/22
▽、▼ はそれぞれの区の防除開始時期
グループＩ：うどんこ病の卓効剤または混用で優れた効果を示す組み合わせ
グループII：うどんこ病に効果がある殺菌剤

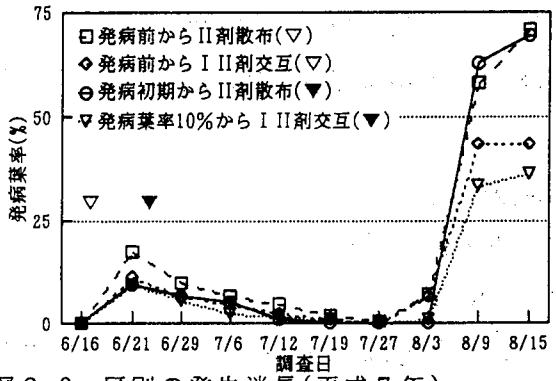

図２-２　区別の発生消長(平成７年)
品種は南極１号／ひかりパワー、初発は6/21
▽、▼はそれぞれの区の防除開始時期
グループＩ：うどんこ病の卓効剤または混用で優れた効果を示す組み合わせ
グループII：うどんこ病に効果がある殺菌剤

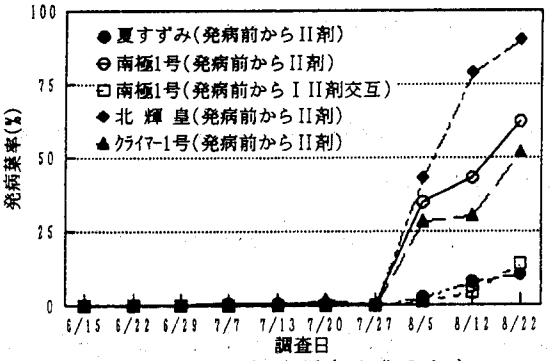

図３-１ 品種別の発生消長(平成６年)
初発は、夏すずみ、北輝皇で7/4
南極１号、クライマー１号、北輝皇で6/22
台木は全てひかりパワー
散布開始は6/15
グループＩ：うどんこ病の卓効剤または混用で優れた効果を示す組み合わせ
グループII：うどんこ病に効果がある殺菌剤

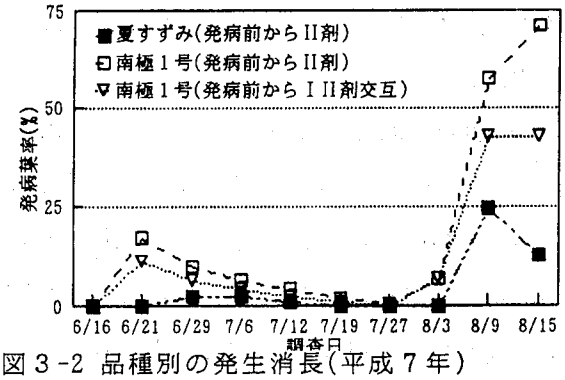

図３-２ 品種別の発生消長(平成７年)
初発は南極１号で6/21、夏すずみで6/29
台木はすべてひかりパワー
散布開始は6/21
グループＩ：うどんこ病の卓効剤または混用で優れた効果を示す組み合わせ
グループII：うどんこ病に効果がある殺菌剤